

代 表 者

沖
田

視 察 報 告 書

令和4年12月14日

会 派 代 表 者 様

呉市議会議員 沖 田 範 彦

次のとおり行政視察及び陳情活動を行ったので報告します。

1. 調査期日

令和4年12月1日（木）～2日（金）

2. 調査項目

静岡県 浜松市 はままつフラワーパークについて

3. 陳情先

衆議院（詳細は別紙）

4. 参加議員

沖田範彦議員

●静岡県浜松市

・調査項目

はままつフラワーパークについて

・調査対応者

公益財団法人 浜松市花みどり振興財団 理事長 塚本 こなみ

・調査期日

令和4年12月1日（木）13時30分～15時30分

・浜松市の概要

人口：793,198人（令和4年12月1日）

世帯数：351,607世帯（令和4年12月1日）

・調査目的

多くの観光客が訪れる先進事例施設を視察し、その取り組みを学び、本市の観光振興施策の検討に役立てる。

・視察内容

【塚本理事長から説明等】

はままつフラワーパークは、浜松市施行60周年事業の一環として、1970年9月に開園し、公益財団法人浜松市花みどり振興財団が管理運営を行っており、敷地面積は30万㎡と広大で、園内は高低差のある中で、リフトやオープン車両を配備し、移動しやすい環境にしている。園内では、藤の花を中心に約3000種の花木が楽しめ、年間約70万人の観客が訪れる市民の癒やしの場となっている。

塚本こなみ氏は、日本で初の女性樹木医である。同氏は、現在、造園技能士として造園会社を営んでおられる他、地元浜松市の「公益財団法人 浜松市花みどり振興財団」の理事長の職にあられる。

同氏は、「藤の木」の管理者として、日本で一番の権威者であり、栃木県足利市の早川造園の依頼により、現「あしかがフラワーパーク」における藤の木の移植を成功させ、当施設の園長として20年近くにわたり携わり、当施設は、藤の庭園として名を馳せ、年間150万～160万人もの入園者が訪れる施設を造り上げた人である。

一方、主人を社長とする造園会社では、秋篠宮様の館の庭園管理を行うほか、広島では、安芸高田市の湧永庭園の管理を請け負っておられ、全国からの要望で、講演や指導に携わっておられる。

呉市上下水道局が所有・管理している三永水源池の「藤の木」の写真と同

氏に見て頂き、次のとおり意見を頂いた。

1. 棚の造りが不十分で、格子状にする必要がある。
2. 藤の木は、10m四方に1本で良く、数多く植え過ぎている。
3. 枝の状態を見ると、藤のことを良く知らない職人が管理している。
4. 藤の根元の土が、人圧で固くなり過ぎており、木が呼吸しにくくなっている。

【呉市での展開の可能性】

呉市も音戸の瀬戸公園等を始め、他市に類を見ない自然美を有しており、しっかりと磨きをかけていけば、多くの人を呼び込むことが可能となり、観光産業の振興に役立つものと、改めて確信した。

また、呉市所有のグリーンピアせとうちの一部を、花木の公園に仕立てるといった構想もあり、三永水源池の藤の木を移植して、あしかがフラワーパークのように「藤の庭園」として再構築したら良いと考えており、それを提案したい。

とりあえず年間50万人の入場者を目指し、呉市の新たな観光名所の1つとして磨きをかけて、うってつけの素材として活用できるようにしたい。

塚本氏には、一度、呉市に足を運んで頂くようお願いをした。

●陳情

・ 期日

令和4年12月2日（木） 10:00～14:30

・ 陳情先

衆議院

岸田 文雄首相	平口 洋議員	斉藤 鉄夫議員
◎新谷 正義議員	寺田 稔議員	佐藤 公治議員
小林 史明議員	畦元 将吾議員	◎石橋 林太郎議員
◎日下 正喜議員	小島 敏文議員	◎空本 誠喜議員
平林 晃議員	小野寺 五典議員	浜田 靖一議員
高市 早苗議員		

(◎は直接お会いした議員で、その他は事務所へ配付した。)

・ 陳情内容

海上自衛隊呉基地の見直し及び活用等について
(別添「御提案書」を参照)

御 提 案 書

令和4年12月 日

殿

広島県呉市議会議員
日本のことを大切に
沖 田 範 彦

日本を取り巻く環境は、安全保障上、大変厳しい状況となりつつあり、国民世論も「防衛力強化は必要である」との意識も高まってきています。

政府は、国土と国民の生命財産を守るためには、防衛費をGDP比2%に引き上げる必要があるとの方針を示しました。

我が呉市は、近代日本の発展の一翼を担う地として、海軍鎮守府が置かれて以来、東洋一の軍港としての歴史を刻んで今日に至っています。

しかし、造船や鉄鋼を中心とした重厚長大型の産業の衰退や撤退に伴い、かつての活力は見る影もなく、特に、日本製鉄の完全撤退は、呉市の行く末に大きな影を落としています。

「戦艦大和のふるさと」である呉の原点は海軍です。呉は海上自衛隊の基地として、潜水艦基地として、国防の重要な役割を担っています。

世界情勢が混沌としてきている今、呉の地を今一度、国防の要の地として位置づけて頂ければと御提案申し上げる次第です。

【提案】

- ①日本製鉄株式会社瀬戸内製鉄所呉地区（旧日新製鋼）工場跡地42万坪の活用（例：呉海上自衛隊と陸上自衛隊13旅団（海田町）の合同基地として活用）
- ②呉市の南に伸びる半島（通称：休山）の地下に、もぐら基地を掘削構築（研究施設、弾薬庫、住民緊急避難場所、食料備蓄庫）
- ③休山半島の東西を運河で結び、潜水艦の基地として活用
- ④休山半島の東側（大入地区）の海面を掘削残土で土地造成
- ⑤現呉海上自衛隊教育隊の敷地（9万坪）を呉市へ払い下げ（呉市は陸上競技場を中心としたスポーツパークとして活用）

以上、御提案申し上げます。

文責 沖田 範彦